

2023 年 10 月 3 日(火)

茸 ～幽玄なる薪能の世界～

10 月に入り日ごとに、秋の深まりを感じる頃となりました。秋と言えば、色づく美しい木々に、読書、スポーツ、そして食べ物…と魅力いっぱいの季節です。中でも、松茸や椎茸など茸類は鍋物に欠かせない食材です。

ところで、先日、新宿御苑で開催された「第 35 回 新宿御苑 森の薪能」を鑑賞して来ました。ここは江戸時代には信濃高遠藩内藤家の下屋敷の庭園があった場所で、現在では 58 畝^{たかとう}という広大な土地に 1 万本を超える木々が植えられています。



夜になると、周囲の喧噪からは隔離された闇に爽やかな風が吹き抜ける土地となり、かつて近くの高校に勤務していた時は夕方ともなると周囲を走ったりしていた思い出の土地です。今年の演目は、野村 萬齋^{まんさい}さんほか演じる狂言『茸』^{くさびら}、それに観世 鐵之丞^{かんぜ}さんほか一門による能『一角仙人』^{いつかくせんじん}でした。

秋を愛でる演目でもある『茸』を薪能として鑑賞するのは初めてでしたが、揺れる灯火の中で家主や山伏の願いに反して、衣装も冠り物も形を違う 8 種の茸たちが思いのままにユーモラスに演じるステージを大いに楽しむことができました。外国からの方々も多くいらっしゃり英語でも解説がありましたが、舞台芸能の醍醐味はストーリーを追うより、本舞台と橋懸かり、松の描かれた鏡板、600 年変わらない同じ様式の舞台で繰り広げられる演者との直感的な受け止め方にあるとも言えるでしょう。今宵は茸鍋にでもしましょう。

参考文献

もとした いづみ:文・竹内 邇雅:絵(2017)『狂言えほん くさびら』講談社, 36 ページ。

片山 清司:文・小田切 恵子:絵(2017)『一角仙人』ビーエル出版, 32 頁。

校長 石飛 一吉